

平成 29 年 6 月 15 日現在

機関番号：12102

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25245082

研究課題名(和文) グローバル・スタンダードとしての特別支援教育の創成と貢献に関する総合的研究

研究課題名(英文) A comprehensive study on the creation and contribution of special needs education as a global standard

研究代表者

安藤 隆男 (ANDO, Takao)

筑波大学・人間系・教授

研究者番号：20251861

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 26,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、グローバル・スタンダードとしての特別支援教育を創成するための基礎的、実践的な知見を得ることを目的として、特殊教育・特別支援教育の理念・制度、教員養成・現職教育、教育実践・授業、の3つの課題を設定した。近年経済成長が著しいベトナムをカウンターパートとして研究課題に共同的に取り組んだ。これらの活動を通じて、ベトナムの教員養成、現職教育における重複障害教育の充実に對する要請を確認できた。

研究成果の概要(英文)：This study obtained basic and practical knowledge for creating special needs education with a global standard. The research system was organized according to the following three research themes: principles and systems of special needs education, teacher training and in-service training, and educational practice and lesson study. We worked cooperatively on these research themes with Vietnam as a counterpart that has in recent years experienced remarkable economic growth. These activities suggested a strong demand for enhancement of education for the multiple disabilities in teacher training and in-service training in Vietnam.

研究分野：特別支援教育

キーワード：特別支援教育 国際教育協力 指導 支援

1. 研究開始当初の背景

研究開始時の背景は次のとおりである。

(1) インクルーシブ教育・合理的配慮の形成に対する障害児教育実践力の示唆の重要性

現在、各国では、インクルーシブ教育の実現へ向けた具体的方策として、多様なニーズのある児童生徒が同じ学校教育システムで学習するためのカリキュラムや、学習指導・支援体制の在り方が模索されている(Agran, Cavin, Wehmeyer & Palmer, 2006; Le, Tse & Lian, 2009)。特に、障害のある児童生徒については、通常教育カリキュラムやへのアクセシビリティや通常教育カリキュラムの中に特別なニーズのある児童生徒への教育内容・方法を付加的に組み込むことにより、多様なニーズに応えることができる新しい「通常教育カリキュラム」を作成することが求められる。つまり、通常教育カリキュラムと異なるものとして位置づけられてきた特殊教育カリキュラムが、現在は通常教育のケル合理的配慮として、捉え直されるようになってきた。

このような状況の中、社会的インフラの未整備・未発達な新興国においては、限定的な整備状況の通常教育資源に障害児を包含する形で、物理的には障害のある子どものインクルーシブ教育が盛んに実施される結果となっている。しかしながら、日本を含めた先進国の障害児教育では、通常学校カリキュラムとは異なる教育内容・方法、専門性を有する教員によって、その実践が発展してきたため、先進国におけるインクルーシブ教育開発に際しては、障害カテゴリーごとに蓄積された独自のシステムや教育内容・方法を尊重することも重要である。また、日本を含めた先進諸国が新興国の特別支援教育開発国際協力を実施する際にも、自国の制度知・実践知の蓄積を踏まえつつ、当該国の教育の実情に応じた協力の在り方を考える必要がある。

(2) 特別支援教育開発国際協力の実情と課題

特別支援教育分野においては、国連「障害者の権利条約」で、「あらゆる国(特に新興国)における障害者の生活条件改善のための国際協力が重要である」とされ、特別戦教育分野における国際教育協力に対する積極的な関与が期待されている。日本の特別支援教育分野の具体的な取組の多くは、国際協力機構 JICA を中心としたものであり、政府機関や大学等が組織的に関与した取り組みは少ない。また、支援内容についても、現地の特別支援学校で日本の教員が授業や講義するなどの報告が散見され、特別支援学校教員が現地での特別な場において研究授業や指導法に関する支援を行う方法が多数を占める。佐藤(2008)は日本の優れた実践 good practice を基にした教育開発援助プログラムは財政的な負担は少なく、ソフト面において効率的かつ効果的に教育改善を促すことができる教育開発援助モデルであるとし、その有効性

を述べている。田中(2008)は、日本型教育実践 Japanese Education Model(以下 JE モデル)を発信することを提案し、特に、日本の授業研究は 'Lesson Study' として世界に普及しつつあり、支援する側にとっても、自国の教育を振り返る契機となる。特別支援教育においても優れた実践を JE モデルとして発信していくことで、国際教育協力への可能性を広げると同時に、日本の特別支援教育の長所や成果を確認することができると思われる。

2. 研究の目的

(1) 日本の特殊教育・特別支援教育が分離的な場で、障害種別に特有のニーズと個々人の教育的ニーズに応じた教育実践で積み上げられてきた教育成果を明らかにする。

(2) インクルーシブ教育下におけるベトナムの教員養成・現職教育の現状と課題を明らかにする。

(3) 日本の特別支援学校(筑波大学附属特別支援学校)の教育実践者とベトナムの教育実践者との共同授業研究を通して、インクルーシブ教育下の国際教育協力において特別支援教育の知見・実践が果たしうる役割を明らかにする。

戦後 30 年余を経過して、障害児教育の理念とこれを実現する諸制度の基盤を整備する途上にあり、かつ研究代表者が研究フィールドとして実績を有するベトナムをカウンターパートとして、学術研究及び実践研究の相互交流と比較研究を通して、今後、日本の特別支援教育が希求すべき国際教育協力分野の貢献に資する基礎知見を得るものである。

3. 研究の方法

本研究では次の 3 つの研究から構成した。

(1) 理念・制度に関する研究：学校教育に対する社会的期待、学校教育の社会的役割、障害児教育の理念、学校教育制度

(2) 教員養成・教師教育研究：教員養成制度・プログラム、現職教育制度・プログラムの実際とその成果

(3) 教育実践・授業研究：日本とベトナムの教員による共同授業研究の企画と展開

研究分担者、連携研究者、研究協力者は、筑波大学人間系障害科学域の研究者群、他大学教員養成・大学院対等の研究者群、筑波大学特別支援教育研究センターの研究者・筑波大学附属特別支援学校の教員群、ベトナムの研究協力者群であった。

4. 研究成果

(1) 理念・制度研究

新興国や開発途上国では、その国独自の特別支援教育や統合教育の実践とそれに基づく知見が十分蓄積されないまま、インクルーシブ教育が外から導入されたことで、子どもが教室に詰め込まれ、障害児にとっても、障

害のない児童生徒にとっても質の低い教育が実施されているとの指摘がある (Armstrong, 2012)。もともと特別支援教育の資源のなかったこれらの国々では、「インクルーシブ教育環境」下での教育実施が必然であったことが指摘される一方(上原, 2007) 必ずしも適切で十分な教育がなされていない状況への対応として、ベトナムでは、十分な教育的対応ができない通常学校ではなく、特別学校において障害児を受け入れるようになってきていることが指摘されている(白銀, 2015)。このように分岐型の教育が形成されてこなかった国でインクルーシブ教育を実施しようとする「包摂する」ことが大前提とされ、個別のニーズに対応出来ない状況、すなわち教育が効果的に機能していない状況が是認されてしまう懸念があることや、個別のニーズに対応するには、特別な学びの場が必要となる現状があることがわかる。

日本においても、インクルーシブ教育システムを目指す特別支援教育改革の中で、例えば視覚障害教育研究者からは、視覚障害教育の専門性の拠点として、各都道府県に最低1校の「盲学校」の確保が希求されている。2014年1月に日本は「障害者の権利に関する条約」を批准したが、視覚障害教育関係研究者は『すべての視覚障害児の学びを支える視覚障害教育の在り方に関する提言 -視覚障害固有の教育ニーズと低発生障害に応じた新しい教育システムの創造に向けて-』というアピールを上書した。この提言では、「インクルーシブ教育システムの理念とそれに向かっていく方向性については基本的に賛成」し、「視覚障害児のニーズに的確に応える指導を提供できる多様で柔軟な教育のしくみ」の必要性を求めている。またこのようなシステムにおいては、視覚特別支援学校(盲学校)を専門性の拠点(センター)として位置づけることが主張されている。

このように、「特別の方法によりその能力に応じて有効なる教育を受けられる」障害のある子どもたちに、実質的な学びを保障するための仕組みとしての多様な学びの場の確保とその中の特別な学びの場における教育の専門性の維持継承が求められている。

インクルーシブ教育システムの実現が、世界的課題であるが、特別な方法の考案と展開を保障する仕組みが世の東西を問わず、システムの一部として必要であると考えられる。

(2) 教員養成・教師教育研究

ベトナムの教員養成及び現職教育・研修については、ホーチミン市師範大学特殊教育学部 (Ho Chi Minh City University of Education) インクルーシブ教育支援開発センター (Center for Supporting and Developing Inclusive Education for People with Disabilities HCMC) の研究協力の下、資料の収集とインタビュー調査を行った。教

員養成のカリキュラムに着目すると、特殊教育学部では基礎科目 32 単位、専門基礎科目 35 単位、専門科目 52 単位、教育実習 10 単位、卒業論文 6 単位の 135 単位から構成されており、そのうち特殊教育に関する科目は 71 単位であった。特徴としては、インクルーシブ教育の重視、早期教育の重視、特殊教育に特化したカリキュラムの編成、知的障害の必修化をあげることができる。特殊教育に関して原則一つの専攻において一つの資格を取得することとなっており、肢体不自由教育や重複障害教育の養成機能がきわめて脆弱であるとともに、養成段階での教科教育の専門性の確保が想定されていないなどの課題が指摘できる。2014 年度、ホーチミン市師範大学の要請により、研究代表者である安藤が特殊教育学部教員及び学生を対象に、12 月 15 日に 'Special Needs Education in Japan' を、同月 16 日に 'Education for Children with Cerebral Palsy' を題目に特別講義を行った。

ホーチミン市師範大学では、2006 年に現職教育プログラムとして、師範短期大学や専門学校の卒業生を対象とした 3 年コースと、師範短期大学の特殊教育学部を卒業した 2 年コースを設置した。3 年コースは、2008 年以降入学者がなく、実質的には 2 年コースのみの開設となっている。カリキュラムは、専門基礎科目 5 科目、専門科目 20 科目、教育実習、卒業試験から構成され、教育実習と卒業試験を除く 25 科目中 22 科目が特殊教育に関わる科目となっていた。4 年の教員養成コースと異なり、視覚障害、聴覚障害、知的障害、発達障害の各領域について広く学ぶ構成となっている。面接調査の結果、単一障害を前提とする特殊学校において今日、脳性まひなどの運動障害や重複障害を有する児童生徒の存在が注目される中、養成大学においてこれらを専門とする教員の配置がなされていないこと、関係科目の開設が少ないことが課題として挙げられた。

インクルーシブ教育支援開発センターは、1989 年に設置され、主な業務として、障害児の早期発見、地域における障害児のための早期介入プログラムの策定・実施、保護者に対する相談、を実施している。2014 年 1 月から 15 か月の間に 8 つの現職研修プログラムが実施され、延べ 1000 名に達する参加者が得られた講座もある。特殊教育に関する現職研修のニーズは高いものの、多様なニーズに対応するセンター職員の専門性の向上、脳性まひや重複障害児に対する理解や指導法に関するプログラムの充実、等の課題が指摘された。

2015 年 9 月 19 日から 21 日に、日本特殊教育学会第 53 回大会 (東北大学) の学会企画シンポジウム「インクルーシブ教育システム下における特別支援学校の役割 -ベトナムの教員養成および教育現場の立場から日本の教員養成および特別支援学校の役割に

期待すること～」において、研究協力者であるホーチミン市師範大学特殊教育学部長の Hoang Thi Nga 氏、インクルーシブ教育支援開発センター長の Nguyen Thanh Tam 氏を招聘し、話題提供をいただいた。

(3)教育実践・授業研究

本研究については、研究代表者である安藤が統括して、主として日越共同授業研究として次のようなプログラムの開発と展開を行った。共同授業研究の実施者は、日本側は、筑波大学特別支援教育研究センター及び附属特別支援学校（附属視覚特別支援学校、附属聴覚特別支援学校、附属桐が丘特別支援学校）の教員、ベトナム側はインクルーシブ教育支援開発センター、グエンディンチュウ盲学校などの教員である。

2013 年度は、共同授業研究に係る打合せ、研究会を定期的に開催するために新たにテレビ会議システムを導入した。ホーチミン市を訪問し、インクルーシブ教育支援開発センター及びグエンディンチュウ盲学校などにおいて共同授業研究プログラムの展開について確認を行った。なお、共同授業研究は、ベトナムにおいてニーズの高かった障害の特性に対応した教科指導の実施、脳性まひ児・重複障害児の的確な実態把握と指導の実施を主な内容とした。

2014 年度は、11 月 17 日から 20 日までの 4 日間、ベトナム教員 5 名を招聘し、筑波大学附属特別支援学校での共同授業研究を実施した。11 月 21 日には筑波大学つくばキャンパスにて共同授業研究に係る成果報告会を開催した。12 月 14 日から 19 日まで協働授業研究の資料収集、フォローアップ及び次年度のベトナムにおける共同業研究の打合せを目的として、ホーチミン市の各機関を訪問した。

2015 年度は、11 月から 4 日までの 3 日間、前年度共同授業研究に参画した筑波大学附属特別支援学校 4 名をホーチミン市の各機関に派遣し、ベトナムにおける共同授業研究を実施した。最終日 4 日の午後に、グエンディンチュウ盲学校を会場に、共同授業研究の全体カンファランスを開催し、成果と課題について確認を行った。ベトナムにおける共同授業研究の実施にあたり、毎月、派遣教員との連絡、打ち合わせを、各学校に設置したテレビ会議システムを利用して行った。

2016 年度は、ホーチミン市のインクルーシブ教育支援開発センターなどを訪問し、センター長の依頼で市内の公立特殊学校の授業見学を実施した。適宜、重複障害児の指導について実技実習を交えてスーパーバイズなどを行った。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 13 件)

内海友加利、安藤隆男、特別支援学校教員

の初任者研修における実施内容の変遷～一自治体における校外研修に着目して～、障害科学研究、査読有、第 41 巻、2017、91-104 DOI:なし

岩崎優、米田宏樹、「精神薄弱」に関する三木安正の思想 教育の場と方法に着目して、障害科学研究、査読有、第 41 巻、2017、135-148 DOI:なし

丹野傑史、Dang Thi Phoung Mai、石阪菜未、山ノ上奏、任龍在、安藤隆男、ベトナム人大学生の肢体不自由児イメージおよび肢体不自由教育観 特殊教育学部の学生を対象に、障害科学研究、査読有、第 40 巻、2016、69-80 DOI:なし

丹野傑史、Dang Thi Phoung Mai、安藤隆男、ベトナム・ホーチミン市における特殊教育に関する現職教育の現状と課題、上越大学特別支援教育実践研究センター紀要、査読有、第 22 巻、2016、29-33 DOI:なし

左藤敦子、池田彩乃、山中健二、四日市章、特別支援教育における現職教員の研修ニーズ 特別支援教育史度実施 7 年後の特別支援学校の現状と展望、筑波大学特別支援教育研究、査読有、第 10 巻、2016、53-64 DOI:なし

Ikeda & Takao Ando、Awareness of Importance and Related Factors for Designing Individual Teaching Plans at Regular Elementary Schools in Japan、Journal of Special Education Research、査読有、第 4 巻第 2 号、2016、21-28 DOI:なし

安藤隆男、丹野傑史、黒羽マイ、尾坐原美佳、任龍在、Hoang Thi Nga、ホーチミン市師範大学特殊教育学部における特殊教育教員養成の現状、障害科学研究、査読有、第 39 巻、2015、101-112 DOI:なし

安藤隆男、尾坐原美佳、黒羽マイ、丹野傑史、任龍在、インクルーシブ教育下におけるベトナムホーチミン市の特殊学校の現状と課題 A 盲学校を例に、筑波大学特別支援教育研究、査読有、第 9 巻、2015、2-8 DOI:なし

黒羽マイ、丹野傑史、尾坐原美佳、任龍在、安藤隆男、ホーチミン市における重複障害児の教育に対する保護者のニーズ、障害科学研究、査読有、第 39 巻、2015、65-74 DOI:なし

安藤隆男、小・中学校における肢体不自由教育の充実と特別支援学校への期待、肢体不自由教育、査読無、第 217 巻、2014、10-15 DOI:なし

安藤隆男、現代の教育事情 ベトナム・ホーチミン市における障害児教育学校の役割と課題について、千葉教育、査読無、平成 26 年度 菜 (No.630)、2015、4-5 DOI:なし

中村満紀男、岡典子、戦後特殊教育の再建と再編成における分離問題と設置責任主体に関する検討 昭和 20 年代を中心に、障害科学研究、査読有、第 39 巻、2015、1-16 DOI:

なし

四日市章、聴覚障害教育における教師の専門性の形成、障害者問題研究、査読有、第41巻第4号、2014、258-263 DOI:なし

〔学会発表〕(計 22 件)

内海友加利、山本瑠実、安藤隆男、日越共同授業研究の成果と課題、障害科学学会第12回大会、2017年03月04日、筑波大学(茨城県つくば市)

山本瑠実、内海友加利、安藤隆男、日越共同授業研究の成果と課題、障害科学学会第12回大会、2017年03月04日、筑波大学(茨城県つくば市)

山本瑠実、内海友加利、丹野傑史、安藤隆男、日越共同授業研究のデザインと実施共同授業のデザイン、日本特殊教育学会第54回大会、2016年09月17日~2016年09月19日、新潟日報メディアシップ(新潟大学)(新潟県新潟市)

内海友加利、山本瑠実、石阪茉未、山ノ上奏、丹野傑史、安藤隆男、日越共同授業研究のデザインと実施 事例に基づく成果と課題、日本特殊教育学会第54回大会、2016年09月17日~2016年09月19日、新潟日報メディアシップ(新潟大学)(新潟県新潟市)

米田宏樹、米国におけるスタンダードに基づく教育評価とインクルーシブ・カリキュラム 重度知的障害児への適用の現状と課題、日本特別ニーズ教育学会第22回大会、2016年10月15日、金沢大学(石川県金沢市)

Kakizawa Toshiyumi、Inclusive Society in Japan, International Conference on Special Educational Needs(招待講演)(国際学会)、2016年12月02日、Indonesia University of Education (Indonesia)

丹野傑史、DANG Thi Phuong Mai、石阪茉未、山ノ上奏、安藤隆男、日越協働による特殊教育教員研修 ベトナムでの共同授業研究の実施、障害科学学会第11回大会、2016年03月05日、筑波大学(茨城県つくば市)

石阪茉未、DANG Thi Phuong Mai、山ノ上奏、丹野傑史、安藤隆男、日越協働による特殊教育教員研修 ベトナムでの共同授業研究の成果と課題、障害科学学会第11回大会、2016年03月05日、筑波大学(茨城県つくば市)

青木琴音、岡典子、宮内久絵、米田宏樹、精神薄弱教育におけるカリキュラム論の展開 1963年養護学校学習指導要領の制定過程に着目して、日本特殊教育学会第53回大会、2015年09月19日~2015年09月21日、東北大学(宮城県仙台市)

石阪茉未、DANG Thi Phuong Mai、山ノ上奏、尾坐原美佳、丹野傑史、任龍在、安藤隆男、ベトナム人大学生の抱く肢体不自由児者に対するイメージ 生活能力および生活実態に着目して、日本特殊教育学会第53

回大会、2015年09月19日~2015年09月21日、東北大学(宮城県仙台市)

DANG Thi Phuong Mai、石阪茉未、山ノ上奏、尾坐原美佳、丹野傑史、任龍在、安藤隆男、ベトナム人大学生の抱く肢体不自由児者に対するイメージ 肢体不自由児に必要な教育機能及び担当者、日本特殊教育学会第53回大会、2015年09月19日~2015年09月21日、東北大学(宮城県仙台市)

安藤隆男、小林秀之、Hoang Thi Nga、Nguyen Thanh Tam、インクルーシブ教育システム下における特別支援学校の役割 ~ベトナムの教員養成及び教育現場の立場から日本の教員養成及び特別支援学校の役割に期待すること、日本特殊教育学会第53回大会(学会企画シンポジウム)(招待講演)、2015年09月19日~2015年09月21日、東北大学(宮城県仙台市)

黒羽マイ、Hoang Thi Nga、尾坐原美佳、丹野傑史、任龍在、安藤隆男、ベトナムの特別支援教育における教員養成 特別支援教育教員養成の現状と課題、日本特殊教育学会第52回大会、2014年09月20日~2014年09月22日、高知大学朝倉キャンパス(高知県高知市)

丹野傑史、Le Thi Minh Ha、黒羽マイ、尾坐原美佳、任龍在、安藤隆男、ベトナムの特別支援教育における教員養成 ホーチミン市師範大学における教員養成カリキュラム、日本特殊教育学会第52回大会、2014年09月20日~2014年09月22日、高知大学朝倉キャンパス(高知県高知市)

丹野傑史、Dang Thi Phuong Mai、尾坐原美佳、任龍在、安藤隆男、ベトナム人大学生が抱く肢体不自由児の教育的ニーズ ホーチミン市師範大学特殊教育学部の学生を対象に、障害科学学会第10回大会、2015年02月21日、筑波大学(茨城県つくば市)

DANG Thi Phuong Mai、尾坐原美佳、丹野傑史、任龍在、安藤隆男、日越協働による特殊教育教員研修 ベトナム教員のニーズ、障害科学学会第10回大会、2015年02月21日、筑波大学(茨城県つくば市)

石阪茉未、DANG Thi Phuong Mai、丹野傑史、尾坐原美佳、任龍在、安藤隆男、日越協働による特殊教育教員研修 授業を通じた教員研修の実施、障害科学学会第10回大会、2015年02月21日、筑波大学(茨城県つくば市)

安藤隆男、日本の特別支援教育 GIAO DUC DAC BIET O NHAT BAN、ホーチミン市師範大学特殊教育学部特別講演(招待講演)、2014年12月15日、ベトナム・ホーチミン市師範大学

安藤隆男、脳性まひ者の特性と教科指導 Education for Children with Cerebral Palsied、ホーチミン市師範大学特殊教育学部特別講演(招待講演)、2014年12月16日、ベトナム・ホーチミン市師範大学

黒羽マイ、Le Thi Minh Ha、丹野傑史、任

龍在、安藤隆男、ベトナムの特別支援教育の現状と課題 障害児の実態と教員養成について、障害科学学会第8回大会、2014年03月01日、筑波大学(茨城県つくば市)

②1 任龍在、黒羽マイ、丹野傑史、安藤隆男、ベトナムの特別支援教育の現状と課題 重複障害児の保護者が抱える子どもの将来に関する願望、障害科学学会第8回大会、2014年03月01日、筑波大学(茨城県つくば市)

②2 丹野傑史、黒羽マイ、任龍在、安藤隆男、ベトナムの特別支援教育の現状と課題 重複障害児の保護者が抱える教育的ニーズ、障害科学学会第8回大会、2014年03月01日、筑波大学(茨城県つくば市)

〔図書〕(計 6 件)

安藤隆男、筑波大学特別支援教育研究センター、教育出版、特別支援教育の指導法[第2版]、2016、241

斉藤佐和、四日市章、筑波大学特別支援教育研究センター、教育出版、特別支援教育の基礎理論[第2版]、2016、211

前川久男、四日市章、筑波大学特別支援教育研究センター、教育出版、特別支援教育における障害の理解[第2版]、2016、225

安藤隆男、藤田継道(編著)、ミネルヴァ書房、よくわかる肢体不自由教育、2015、231

安藤隆男編著(分担執筆;岡典子、米田宏樹、岡崎慎治、左藤敦子、任龍在、外)、放送大学教育振興会、改訂新版特別支援教育基礎論、2015、272

安藤隆男、社会福祉法人全国心身障害児福祉財団、新重複障害教育実践ハンドブック(第5章第1節自立活動の専門性の確保において現職研修が必要な背景)、2015、272

6. 研究組織

(1) 研究代表者

安藤 隆男 (ANDO, Takao)

筑波大学・人間系・教授

研究者番号: 20251861

(2) 研究分担者

・四日市 章 (YOKKAICHI, Akira)

筑波大学・人間系・名誉教授

研究者番号: 20230823

・竹田 一則 (TAKEDA, Kazunori)

筑波大学・人間系・教授

研究者番号: 90261768

・柿澤 敏文 (KAKIZAWA, Toshibumi)

筑波大学・人間系・教授

研究者番号: 80211837

・園山 繁樹 (SONOYAMA, Shigeki)

筑波大学・人間系・教授

研究者番号: 90226720

・岡 典子 (OKA, Noriko)

筑波大学・人間系・教授

研究者番号: 20315021

・鄭 仁豪 (CHUNG, Inho)

筑波大学・人間系・教授

研究者番号: 80265529

・小林 秀之 (KOBAYASHI, Hideyuki)

筑波大学・人間系・准教授

研究者番号: 90294496

・米田 宏樹 (YONEDA, Hiroki)

筑波大学・人間系・准教授

研究者番号: 50292462

・岡崎 慎治 (OKAZAKI, Shinji)

筑波大学・人間系・准教授

研究者番号: 40334023

・左藤 敦子 (SATO, Atsuko)

筑波大学・人間系・准教授

研究者番号: 90503699

・河合 康 (YASUSHI, Kawai)

上越教育大学・学校教育研究科・教授

研究者番号: 90224724

・肥後 祥治 (SHOJI, Higo)

鹿児島大学・教育学部・教授

研究者番号: 90251008

・一木 薫 (ICHIKI, Kaoru)

福岡教育大学・教育学部・准教授

研究者番号: 30509740

・任 龍在 (LIM, Yonjae)

群馬大学・教育学部・准教授

研究者番号: 10614604

・丹野 傑史 (TANNNO, Takahito)

長野大学・社会福祉学部・准教授

研究者番号: 90761031

(3) 連携研究者

・川間 健之介 (KAWAMA, Kennosuke)

筑波大学・人間系・教授

研究者番号: 20195142

(4) 研究協力者

・Le Thi Minh Ha (Ho Chi Minh City University of Education, Vietnam)

・Hoang Thi Nga (Ho Chi Minh City University of Education, Vietnam)

・Nguyen Thanh Tam (Center for Supporting and Developing Inclusive Education for People with Disabilities Ho Chi Minh City, Vietnam)